



稲城市立病院特集号

お問い合わせ
市立病院経営企画課財務係
☎377-0931(代表)

最新情報は市立病院HPをチェック!

稲城市立病院 検索



発行 東京都稲城市 編集 秘書広報課広報広聴係 〒206-8601 東京都稲城市東長沼2111 ☎042-378-2111 FAX042-377-4781

稲城市立病院は4月から新体制でスタートしました



令和4年4月からこれまで副院長であった齋藤 淳一氏が新院長となり、病院事業管理者兼院長であった松崎 章二氏が病院事業管理者となりました。市立病院では、今後も信頼とぬくもりのある医療を提供します(写真左から、齋藤新院長、高橋市長、松崎病院事業管理者)。

齋藤新院長よりご挨拶

私は平成11年に慶應義塾大学病院より派遣され、現在まで23年間、稲城市立病院に勤務しています。途中、異動の話もありましたが、この病院が好きで現在に至ります。

当院は、稲城市唯一の総合病院であり、皆さんの拠り所となるべき市立病院です。医療の質の向上を図り、皆さんに信頼される病院でなければなりません。そのためにも、私がいまず重点を置くことは、病診連携・救急医療の強化、そして特色のある病院づくりです。開業医や医療・介護施設との連携を充実させ、顔の見える病診連携づくりを進めます。更に、救急医療を強化し、二次救急の中で可能な限り対応します。

また、4月から新たに消化器内科医師4人を迎え、消化器内科・外科医師合わせて11人と、今までの約2倍の医師による消化器チームで、消化器疾患の診断・治療を行ってまいります。

新型コロナに関しては、今後、どのような様相を呈するか、正確なことは誰にも分かりません。しかし、地域の公立病院としての役割を果たすべく、状況の変化に即座に対応し、適切な体制を整え、引き続き病院一丸となって対応していきます。

こうした医療の中で、私が最も大事にしたいことは、「信頼とぬくもりのある病院でありたい」ということです。当病院の理念でもある「信頼とぬくもりのある医療の提供」を第一とし、患者さんに心から寄り添う医療を行ってまいります。

市立病院では、こうした自治体病院としての役割を果たしつつ、経営基盤の安定化を図りながら、皆さんが求める医療需要への対応と良質な医療提供に、今後も努めてまいります。



新院長 齋藤 淳一
◆主な経歴
昭和61年3月 私立灘高等学校卒業
平成5年3月 慶應義塾大学医学部卒業
平成5年4月 同大学医学部研修医(外科)
平成8年5月 同大学病院専修医(外科)
平成11年5月 稲城市立病院勤務
平成27年4月 稲城市立病院副院長
慶應義塾大学医学部外科学客員准教授
◆趣味
ゴルフ、映画鑑賞

病院開設者より

今日、我が国は少子化・超高齢化、新型コロナという大きな課題に直面する中、自治体病院は地域医療を確保しつつ、患者中心の効率的かつ質の高い医療提供体制の構築が求められています。

市立病院では、4月から新執行体制で今後の地域の医療需要に的確に対応しながら、病診連携・医療介護連携などを推進し、市民が求める安心で良質な医療提供に努めてまいります。

稲城市長 高橋 勝浩

病院事業管理者より

昨年度は、新型コロナの拡大により、皆さんのご依頼を受け入れできないことが多々ありました。ご迷惑をおかけしましたことを心よりお詫び申し上げます。

4月から齋藤新院長による新体制が始まりました。今後ともご支援をお願い申し上げます。

稲城市病院事業管理者 松崎 章二

新しく副院長・診療部長となった医師



池田副院長
(放射線科医師)



清水副院長
(整形外科医師)



岩下内科担当診療部長
(脳神経内科医師)

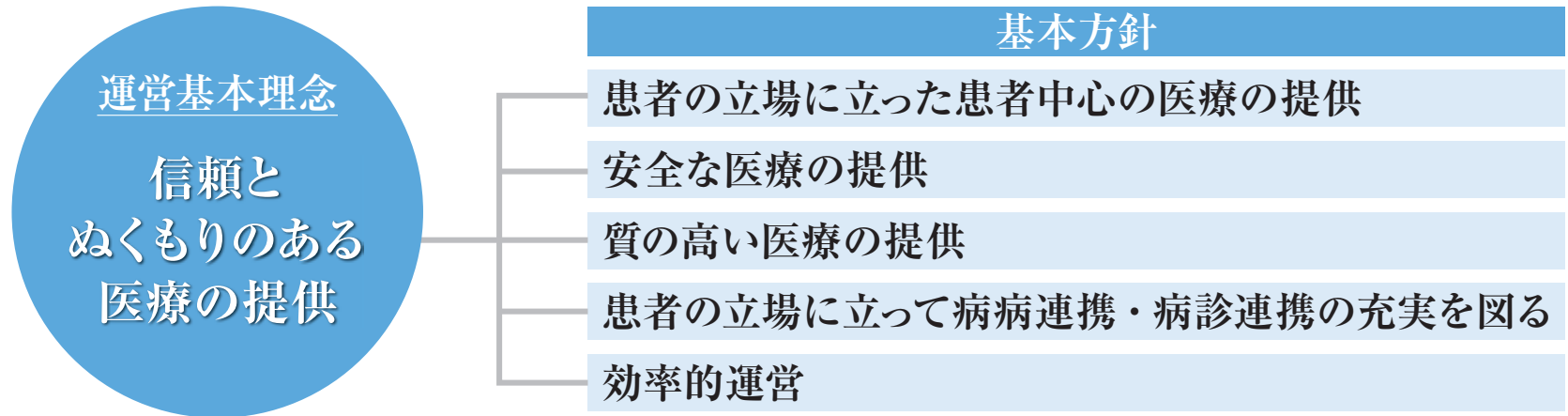


平岩外科担当診療部長
(消化器外科医師)



櫻井周産期担当診療部長
(産婦人科医師)

市立病院の運営基本理念・基本方針



4月から始まった診療科のグループ化と機能の集約化

食道から肛門まで 消化器疾患の治療は「消化器センター」へ

今後、患者さんの増加が見込まれる消化器疾患(がん・腹痛・便潜血・吐下血など)について、内科的な診療(消化器内科)から内視鏡による検査・手術、外科的手術(外科・消化器外科)等までを切れ目なく、トータルサポートするチームとして「消化器センター」を設置しました。

消化器内科の医師を大幅に増員し、外科・消化器外科の医師を含めて診療にあたり、患者さんの立場に立った患者中心の医療を提供します。

腎臓から尿まで 腎・泌尿器疾患、人工透析は「腎センター」へ

腎(糸球体・尿細管など)、泌尿器(前立腺・膀胱・尿路など)の疾患について、腎臓内科・泌尿器科での内科的な診療から泌尿器科での外科的治療、人工透析(腎臓内科・臨床工学科)までを切れ目なく、トータルサポートするチームとして「腎センター」を設置しました。

腎臓内科・泌尿器科で診療、臨床工学科で機器などの維持管理を行い、安全で質の高い医療を提供します。

患者さんご家族の治療・生活をサポート 地域医療の連携と医療・福祉の相談は 「地域医療支援センター」へ

「地域医療支援センター」では、地域の皆さんからの受診相談や転院相談をはじめ、患者さんが安心して医療の提供を受けられるよう、多職種により様々な相談事に対応しています。

患者さんやご家族一人ひとりの治療や生活に合わせたサポートを行っていますので、お困りの際は、気軽にお声かけください。



▲地域医療支援センター職員

チーム医療で地域の皆さんの健康を支えます

看護部

看護部は、当院の理念である「信頼とぬくもりのある医療の提供」を基に、患者さん一人ひとりのニーズに対応すべく、患者さんに寄り添った最善で最良の看護実践に努めています。

今後も地域の方々が「稲城市立病院に来て良かった」と満足していただける看護の提供を目指します。



▲堤崎看護部長(写真中央)と看護部職員

健診センター

健診センターは、稲城市民を中心に地域の皆さんの健康を増進するため、平成24年5月に開館し、今年で10年目を迎えました。

病気にさせない病院の実現をコンセプトとして、最新の予防医学に力を入れ、受診される方一人ひとりの健康状態やニーズに合った検査を行い、健康リスクの早期発見を目指しています。ぜひご利用ください。



▲木戸健診センター長

薬剤部

薬剤部では医薬品を適正・安全に、そしてより効果的に皆さんに提供できるよう、医師をはじめとする他職種と情報共有し、処方確認だけでなく処方提案や注射の無菌調整など、職能を生かし切磋琢磨しています。今後は外来～入院～退院後と切れ目のない医療を皆さんに提供できるよう、更に強靱な医療連携を目指してまいります。



▲一柳薬剤部長